

地域の発意の基づく実地体験モデル事業実施報告 「バイオマス施設（メタン発酵施設ほか）での実地体験学習」

九州産廃株式会社

1. 概要

平成21年1月29日(木)と30日(金)の2日間に渡って、九州産廃株式会社の処理場(熊本県菊池市)にて実地体験学習を実施した。参加者は11名であり、目標(15~20名)よりやや少なかった。業種内訳では、地方自治体6名、民間事業者4名、学生1名だった。その内、地方自治体3名は初日のみの参加だった。

期間中、あいにくの雨だったこともあり、通常より施設の見学や実習では特に安全面に配慮した。おかげで大きな問題もなく、少人数ゆえに和やかな雰囲気事業を実施することができた。

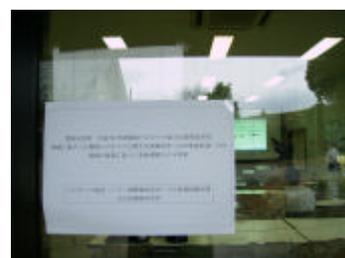


図1 会場の看板

2. 実施の状況

(1) 1日目

講演

表1の講演プログラムのとおり、4名の講師に基礎から最新の情報まで幅広い内容で講演していただいた。参加者のみなさんも熱心に聴講しておられた。

表1 講演プログラム

時間	テーマ	講師
10:05-10:35	バイオマスとは	NPO法人九州バイオマスフォーラム 事務局長 中坊 真 氏
10:40-12:00	メタン発酵とは	熊本大学大学院 自然科学研究科 教授 木田 建次 氏
13:00-14:20	バイオマスの利活用事例	NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク 理事長 泊 みゆき 氏
14:20-15:20	メタン発酵液肥の効果	東海大学 農学部 教授 片野 學 氏



図2 講演の様子

施設見学

講演の後、九州産廃株式会社処理場内に設置されたバイオマス施設のうち、メタン発酵施設、堆肥化施設及びBDF燃料化施設の順で3施設を見学した。雨が降る中での見学だったので、ゆっくりと時間を取ることはできなかった。質疑応答においては、機種選定から設置までの経緯に関するものや、施設の維持管理に関するものなど、実際に施設を設置又は運転することを想定した質問が多かったように感じた。



図3 施設見学の様子

(2) 2日目

体験学習

午前中は、メタン発酵施設にてガスマスクを装着してのガス測定と、分析室にてメタン発酵消化液などの成分測定を体験学習した

バスツアー

午後は、バスツアーに社外へ出た。まず、乳牛を飼育している隈部牧場にて飼育の様子や牛ふんの発生から処理までの状況を見学した。その後、山鹿市バイオマスセンターを見学した。予定していたメタン発酵消化液の圃場散布については、雨天の影響で中止となっていたので見学できなかった。



図4 体験学習の様子1



図5 体験学習の様子2



図6 牧場見学の様子



図7 山鹿市バイオマスセンター見学の様子

3. 事業の評価

参加者にアンケートを記入してもらい、回収したアンケートの集計結果から、事業実施の効果を検証した。カリキュラムの内容から講演と見学及び体験の2つのカテゴリーに分類した。

講演については、メタン発酵などについて「専門用語が多く内容が難しかった。」などの意見があったものの、図8に示したように全体の95%が「非常に満足」又は「満足」と回答しており、十分な効果が得られたと考える。

見学及び体験については、「雨のためよく見られなかったのが残念でした。」という意見があった半面、「講演だけでなく、実際に測定、分析を体験でき、非常に興味深かった。」などの意見もあった。図9に示したように、全体の92%が「非常に満足」又は「満足」と回答しており、講演同様に高い評価が得られた。

総合評価では、有効回答者7名全員が「非常に満足」又は「満足」と回答していた。

総括として、参加者がやや少ないもののそのほとんどは、実地体験学習を通して、バイオマス施設を設置・維持管理する上での重要となるポイントを理解することができ、本事業の目標とされる成果は十分得られた。今後はバイオマスタウン構想の策定や実施など、参加者にバイオマス利活用の普及に努めてもらうことを期待する。

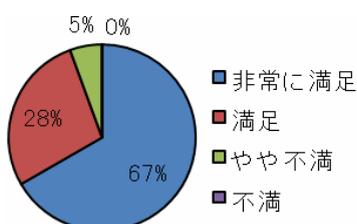


図8 講演全体(母数36)

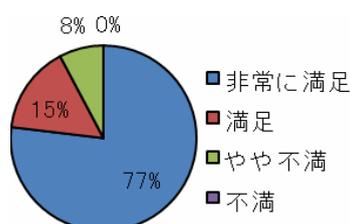


図9 見学及び体験(母数13)

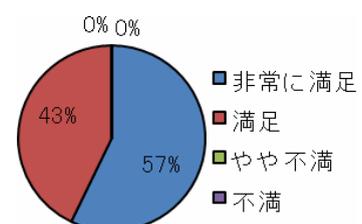


図10 総合評価(母数7)